

# 開放と市場化進む シルバー産業 (上)

# 大連 レポート

(取材・猪瀬和道)

「大連は今日もいい天気」

<http://www012.upp.so-net.ne.jp/kidalian/>

[kazu-ino@ka2.so-net.ne.jp](mailto:kazu-ino@ka2.so-net.ne.jp)

## 多様化する高齢者ニーズ

## 日本のノウハウに期待感

急速に高齢化が進行する大連。対外開放と市場化が進み、幅広い高齢者福祉の施策が打ち出されている。しかし、現実には困窮者対策に追われ、きめ細かなサービスまで手が回らないのが実情だ。こうした中で日本企業の参入を求め、先進的なシステムを導入しようという動きも高まっている。

大連のシルバー産業の現状を三回にわたってレポートする。

### 日中の三企業が業務提携

大連市中心部を流れる馬欄河のほとりに建つ老人福祉施設「大連同泰老年休養サービスセンター」(同泰老年センター)の一階ホールは、いつになく華やかな雰囲気に包まれていた。六月七日午前、同



業務提携の調印を終えて握手する板垣隆(大連北柳社長)、藤野啓(同泰老年センター社長)、金弘珠(北柳会理事長)(右から)

センターと北海道の医療法人「社団 北柳会」(北柳会)、北柳会の現地法人「大連北柳コンサルタン トサービス会社」(大連北柳)の三団体による業務提携の調印式が行われていた。

正面のひな壇には関係三団体代表のほか、来賓として大連市

沙河口区の廬林区長、遼寧省社会福祉協会の李永鉄秘書長ら中国側の公職者も並んだ。大連日報や新商報、大連テレビ局など地元マスコミの記者も取材に訪れ、調印式に対する関心の高さをうかがわせた。そこには中国、さらに大連市の高齢者サービス、福祉に対する姿勢と現状を見ることができるといえる。

中国はすでに一八年前に、六〇歳以上の構成比率が一〇%を超える「高齢社会」に突入した。とりわけ大連は高齢化の進行が早く、現在の老人人口は二三・八%と、中国の各都市の中でも高い部類に位置する。しかも、毎年三・五%も増加し続けている。高齢者対策は避けることのできない国、省、市の緊急テーマなのだ。

中央政府は二〇〇〇年に「社会福祉の社会化」政策を打ち出した。投資主体を多元化し、外国資本を含む民間に求めようというものである。これによって、サービス対象の大衆化、サービス形式の多様化、専門人材の育成を進めようというのだ。

高齢者福祉の対外開放と市場化——その政策が形となって現れたのが、同泰老年センターでの調印式だった。

### 外資導入でサービスの充実

提携内容は、①日本や大連のお年寄りが相手国の高齢者施設を利用する異地域間養老 ②先進的な介護の知識と技術を通じた介護員と教員の養成 ③趣味や娯楽などを通じた高齢者教育 ④大連市政府との折衝窓口となる高齢者社会福祉発展促進会の設立 ⑤大連市沙河口区の社 区ケアセンターの設立 ⑥介護用品の研究、開発など高齢者福祉産業関連事業の推進——の六項目が盛り込まれた。

業務提携は双方の思いがびつたり重なり合った。北海道で介護老人保健施設を営み、介護業務にも実績のある北柳会が、業務提携によって中国介護産業界への本格参入を目指す。一方の同泰老年センターにとっては、北柳会のノウハウによってサービス内容を充実させ、これから激戦が展開されるであろう中国国内の介護産業競争への先手でもある。

調印式では、北柳会が今年四月に設立した大連北柳の板垣隆社長が「日本での経験を大連で生かし、大連市の高齢者福祉向上に役立てたい。高齢者分野で共通点を見出し、共に活動できることは私たちにとっても大きな喜びである」と晴々とした表情であいさつした。

また、廬林区長は今回の提携に大きな期

「日本の投資に期待しています」と語る楊福彬・大連市民政局社会福祉・社会事務部長



待を寄せた。「沙河口区は大連の中で最も高齢化が進んでいるが、老後を幸福に過ごすためには地方自治体の任務。提携先の北柳会は介護技術に優れた福祉企業であり、本日の調印を契機にして、地元政府としてもその技術と理念を導入させていきたい」

大連市政府も外資導入に積極的な姿勢を見せる。とりわけシルバー産業の先進国である日本に対する視線は熱い。

愛知万博の中国館で四月に催された「大連週刊」にあわせ、大連市民政局の高齢者担当職員、業界関係者、研究者らによる社会福祉事業投資誘致代表団を日本に派遣。企業や団体、マスコミに

対して投資を呼びかけるとともに、日本の高齢者に対し、「環境に恵まれ

た大連の老人ホームで老後を送りませんか」「中国の養老施設に泊まりながら観光しませんか」などと売り込んだ。

大連市民政局が作成した日本語の「投資誘致手引き」

また、大連市民政局は日本語の投資誘致手引き（A四版、一六ページ）も作成した。社会福祉の概況から優遇政策、老人福祉市場の将来性、投資を求める具体的な三四件の事業まで紹介。「中国の養老産業は広大で無限の発展性がある」「投資者に利益をもたらすだろう」と、投資の有望性を訴えている。

### 進出躊躇は「携帯電話の二の舞」に

こうした背景には、大連市政府としては収入や子供のいない困窮層のお年寄りのケアだけで手いっぱいという現状がある。多様化する高齢者ニーズに応えられる資金もノウハウも乏しいのだ。

大連市民政局社会福祉・社会事務部の楊福彬部長は次のように語る。

「社会福祉は中国で最大の課題で、とくに高齢者対策は最重要課題。しかし、中国の介護システムは遅れていて、十分に対応できていません。そこで、日本から先進的な技術と知識を学び、今後の高齢者対策に役立てたいのです。大連は距離的に日本と近く、経済交流も活発であり、高齢者サービス分野でも協力関係が深まる基礎ができています」

日本のシルバー産業界にとっても中国は有望な市場であり、視察に訪れる関係者も少なくはない。しかし、実際に調印ま

でこぎ着けたプロジェクトはいまのところ五件ほど。日本側の慎重な姿勢が目立つ。

楊部長は、日本の携帯電話、車、テレビの各産業界が中国市場への参入が後手をとった例を挙げながら、「躊躇している」と二の舞を踏むことになり得る。中国の高齢者福祉はまだ遅れているうえ、大きな市場が待ち構えています。日本のシルバー産業界にとっても絶好のチャンスです」とアピールした。

※メモ

### 「高齢化と長寿」

大連の人口は約六〇〇万人で、このうち六〇歳以上の高齢者は三八万人。平均寿命は七六・六歳。一〇〇歳以上のお年寄りは二九三人で、中国国内の副省級都市では最も多い。高齢化と長寿は大連の人口動態の特徴だ。

「日本の大連市内にリニューアルした養老院。日本人のお年寄りを対象とした施設で内部はホテル並み



## 中国マーケティングデータ総覧 — 2005年 — 地域別（中国31省・自治区・直轄市）データ集 日本・中国同時販売開始!!

完全日本語版刊行!!

●発行形態：A4判、840頁 ●発行日：2005年2月25日 ●中国国内販売価格 2,300人民元（送料込み）日本定価：30,000円  
貴社中国事務所へお届けします。中国国内でのお支払いとなります。目次詳細をお送りしますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

◆中国マーケティングを実践するために役立つ

データ（統計）を厳選し、収録したデータ集

中国ビジネス関連  
部署必携資料

◆中国ビジネス担当者の日常的な  
マーケティング関連情報収集活動の  
効率化が図れるデータ集

China Marketing Databook

制作：中国社会科学院 中日経済研究センター & 中国人文学発展公司  
発行：JMAR株式会社 日本能率協会総合研究所 中国ビジネス情報センター

お問合せ窓口 中国人文学発展公司 〒100078 北京市豊台区芳城園一区17号楼日月天地大廈B座1803室 TEL:010-5807-5815（日本語対応可） FAX:010-5807-5817 Email:ss@ccph.com.cn